

【続報】トルコでの地震による物流への影響

2023年2月6日、トルコ南部を震源とするマグニチュード7を超える地震が複数回、2月20日には同地域で新たにマグニチュード6.3の地震が発生しました。被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。本号では地震から3週間が経過したトルコの被害状況・物流事情をお伝えいたします。

1. 地震の発生と物流への影響

- 今回の地震の被害エリアは非常に広く、東西460kmにも及び、フランスのパリからオランダのアムステルダムまでの距離に相当すると言われております。このエリアの多くの商店・工場、港湾施設などが大きな被害を受けました。
- トルコ政府および人権団体の発表によれば、今回の地震の死者はトルコ・シリアを合わせて4万9000人を超え、余震と思われる揺れも22日までに7,200回以上発生しています。
- 一度目の地震の震源地となったハタイ県は、トルコ大手鉄鋼企業が工場を構える鉄鋼産業の集積地の一つですが、主要鉄鋼工場は生産を停止し、再開のめどは立っていません。また、震源地に近いカフラマンマラスには大手製紙工場がありますが、こちらも地震により生産を停止、稼働再開のめどは立っていません。
- 他方、日系企業も進出しているアダナ県の製造工場への被害は限定的で、震災後2日目には20~25%の稼働率ではあるものの稼働していると現地紙が伝えています。
- 震源地近くのイスケンデルン港では、地震により倒壊したコンテナから火災が発生しましたが、2月13日に鎮火し、冷却作業が完了しました。港に保管されていた約5,400本のコンテナのうち約1,730本は焼損を被り、残る約3,670本は問題ないと思われるものの、中には熱や煙・消火活動による影響を受けている可能性もあるため該当貨物についての確認をお勧めいたします。
- 港湾関係者の情報によれば、イスケンデルン港では復旧作業を進めており、空コンテナをヤードから搬出した後、受損コンテナの検査を進め、3月にはコンテナの引き取りができるよう目指しているとのことでした。
- ハタイ空港の滑走路が損傷しましたが、国内旅客便は徐々に運航再開しております。
- トルコ経済への被害は甚大で、復興には相当な時間がかかるとも言われています。

上記情報につきましては、あくまで現時点での状況をご報告するものです。最新情報を常にご確認いただきたく、どうぞよろしくお願いいたします。



【参考ウェブサイト】

NHK NEWS WEB: (<https://www3.nhk.or.jp>) ジェトロ: (<https://www.jetro.go.jp>)

Limak Port Current Status Update

本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せください。

編集にあたっては万全の注意を行っていますが、本 Topics 情報の正確性を保証するものではなく、

これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。



マリントピックスバックナンバー